

ねじりはちまき

恭賀新春

御一同様には、お揃いで良い年を迎えられたことと、お慶び申し上げます。旧年も皆様からは一方ならぬ御指導御鞭撻を頂きまして、誠にありがとうございました。厚く御礼を申し上げますと共に、本年も相変わらず御愛顧の程を、よろしくお願い申し上げます。

1月4日 御用始め、5日 小寒、9日 成人の日、11日 鏡開きです。15日 小正月、二十日 大寒です。

二十四節気で、今年に入って一番目は小寒です。大寒までの期間をいいます。雪の日も増えて、寒さが次第に厳しくなる頃で「寒の入り」ともいいますね。小寒から立春の前日までの30日間を「寒の内」と呼ばれ、1年間で最も寒い時期です。寒の内に、武芸や音曲のけいこを「寒げいこ」といいますね。凍える寒さの中、年初めから精進することで、人の心も体も磨かれるのでしょうね。

寒さ厳しい折り、皆様の御自愛をお祈り申し上げます。

幸田 常一

植物はすごいという話

今回は「植物はすごい」という本を取り上げたい。その外にも「植物は知性をもっている」という本もある。次のどちらも人間が見過ごしがちな点にスポットを当てている。まずは、「植物はすごい」であるが、著者は田中修氏で、農学博士で甲南大学教授の職にあり、植物生理学を研究している方である。「植物はすごい」というのだが、どんな点を指しているのか。著者はいう。人間は植物を動かないと思っている。ところが、葉っぱに止まったハエなどの小さな虫を素早く捕らえて食べてしまうハエトリソウ、触ったとたんに次々に葉っぱを折りたたんでしまうオジギソウ、実に触れるとパッとほじけてタネを飛び出させるハウセンカなどを見ると、これは“すごい”と驚くだろう。特に子どもにとっては。植物にはこの外にも「美しさや華やかさ」や「スケールの大きさ」で“すごさ”を発揮するものもある。でも“植物のすごさ”はこのように目立つものばかりではない。例えば、太陽の光を受けて行う植物の「光合成」の作用である。これは、人間が真似して行えるものではない。もしデンプンを作る「光合成」を真似できたら、地球上の食糧不足に悩む必要がなくなるが、人間にはできないわけだ。これは“植物はすごい”と言わざるを得ない。ここでは植物たちが持っている、誇示されることなく秘められている“すごさ”に目を向けようというものである。では、著者はどういう点に着目しているのか、次に紹介しよう。その①は「自分のからだは、自分で守る」である。まずは植物の成長力のすごさである。例えば「キャベツ」の場合、一粒5ミリグラムの種から約4か月後には1200グラム（水分を除くと60グラム）の玉になる。重量比較でいうと約24万倍（水分を除くと1万2千倍）になるわけだ。この成長力はすごいといわざるを得ない。ではこの成長力をもたらすエネルギーをどのようにして得るのか。植物はエネルギーを得るために食べ物を探して動くことができない。そこで、必要な栄養を自分で作り出す能力を備えている。ご承知のとおり「光合成」である。葉っぱでブドウ糖やデンプンをつくる。これが植物のエネルギー源である。考えてみると、必要な栄養を他から得ることなく、自ら作り出すというのはすごいことだ。それに加えて、植物は人間を初めすべての動物の食糧を賄っているのだから、これまたすごい。“すごい”の連発だ。肉食の動物もいるというかもしれないが、食べられる動物は実は草食である。つまり、草食動物の肉は、元を辿れば植物というわけだ。「自分のからだは自分で守る」と言えば、バラに見られるように“トゲ”の存在である。動物に食べられたくないという意思表示か。あのきれいなバラになぜトゲがと思うと納得である。植物は動物に食べてもらう役割を演じつつ、一方では拒絶することもあるわけだ。その②は「味は防衛手段！」の“すごさ”である。多くの植物は葉や茎、実やタネを、虫や鳥などの動物に食べられたくないときには、虫や鳥に嫌がられる「味」で守っているという。「おいしくない」と思われたいのだ。植物はそれぞれその味を工夫して、自ら作り出している。その味は「渋い」「苦い」「酸っぱい」「辛い」「甘い」など。これらの味の好き嫌いは動物の種類によって違うが、どうも嫌われる代表格は「渋み」のようである。それを備えているのが「栗の実」である。ご存知のように栗は実になる前にイガで守り、次は茶色の皮で実を守り、最後に実を渋皮で包んで身を守るというわけだ。堅い守りである。おまけに栗は木の材質も堅い。余談だが、「辛み」という味はなく、「辛い」というのは舌が「痛い」と感じることだそうだ。トウガラシなどを食べて、辛みで舌がヒリヒリするわけだ。その③は「病気になりたくない！」の“すごさ”である。植物は病気にならないために、侵入しようとする病原菌を退治する物質を身につけている。例えば、タンポポの葉柄や花柄を折るとネバっとした“白い汁”がでてくる。小さな虫なら、葉柄をかじってこの液をからだにかかればパニック状態になり、それ以上はかじらないというわけだ。オクラの実も同様だ。その実をかじるとネバネバした液がでてくる。かじった虫はからだの表面の気門がふさがれて呼吸ができなくなる。これでは病原菌も避けてしまうというものだ。この

外にも病気にならないために、植物は「かさぶた」をつくったり、「香り」を発したりする。例えば、「森林浴」で浴びているのは、樹々の葉や幹から出ている「フィトンチッド」と呼ばれる香りである。この香りがカビや病原菌を避けるなり、退治する働きをするのである。その④は「食べ尽されたくない！」の“すごさ”である。つまり、有毒物質でからだを守るのである。毒を持つことではトリカブトがよく知られている。でも特別のものばかりでなく、身近なものにも見られる。例えばアジサイである。葉っぱに「青酸を含んだ物質」をもっているのだ。これで虫に食べられるのを防ぐのである。もちろん虫は食べようとはしない。このことはご存知だったでしょうか。その外にもキョウチクトウがある。夏に白やピンクの花を咲かせるが、実は葉っぱや枝に「オレアンドレン」という有毒物質を持っていて、これまた虫から食べられるのを防いでいる。誠に巧妙な仕掛けを持つ存在である。余談だが、食べ尽されたくないために、擬態でからだを守る植物があるというのだ。例えば、ニラとスイセン。ニラがスイセンに似せる。そうすると人間がスイセンをニラと間違っ採りし食べることがある。そうすると食中毒を起こすというおまけがつくわけである。その⑤は「やさしくない太陽に抗して生きる」“すごさ”である。光合成との関係からいうと変に聞こえるかも知れない。約4億年前に海から上陸した植物は、もっと多くの光合成ができると期待したが、太陽の光に紫外線が含まれていること、また太陽の光が強すぎることに直面したのである。紫外線は人間の肌に有害なように、植物にとっても有害である。有害というのは「活性酸素」の働き。この活性酸素の毒を消すのが「抗酸化物質」の代表はビタミンCとビタミンEである。これが植物には備わっている。人間の方は栄養素とだけ考えているかも知れないが、実は「活性酸素」の害を防ぐための防衛策なのである。また、太陽の光が強すぎるとはどういうことか。光合成において、光が強すぎると葉っぱはその光を使いこなせないのだ。なぜ使いこなせないのか。空気中の二酸化炭素がそれに足るほど存在しないからという。消費されない光エネルギーは植物のからだにたまり、有害な「活性酸素」をつくり出す。そこで植物は先に紹介した「抗酸化物質」をつくり出す仕組みを発達させたというわけである。これがまた、人間の栄養素として与えられている。その⑥は「逆境に生きるしくみ」の“すごさ”である。つまり、暑さと乾燥に負けないしくみを持っているということだ。例えば、夏に育つ植物は自分のからだを冷やす冷却能力を備えている。太陽の強い光を受けて、葉っぱから水を蒸発させてからだの温度を冷やすのだ。当然多くの水分を必要とする。そのために広く根を張り巡らすというわけである。一方乾燥地帯で、葉をトゲにして水の蒸発を防いでいるサボテンのような例もある。このサボテンだが、トゲにある気孔を閉じて水の蒸発を防ぐとその気孔から光合成のための二酸化炭素を吸収できない。そこで、離れ業を演じる。涼しい夜のうちに二酸化炭素を取り込んでおいて、昼にそれを光合成に使うというのである。そういう進化を遂げたのである。また、冬の寒さの中でも青々としている常緑樹のことだが、なぜそうなのか。寒さにたえるために何をしているかという、実は葉っぱの中に凍らないための物質をつくり出しているのだ。それは「糖分」である。砂糖水の方が普通の水より凍りにくいというわけだ。その⑦は「次の世代へ命をつなぐしくみ」の“すごさ”である。タネなしでも、花粉なしでも子どもをつくるという例がある。タネなしフルーツや無花粉スギなどである。詳細は略するが、植物が遺伝子を次の世代に引き継ぐために並々ならぬ努力をしているのである。

「ヤマジマイ」

幸田建設様の社報をご愛読の皆様方には、輝かしい新年をお迎えの事と心からお慶びを申し上げます。お陰様で私共も、元気で正月を迎える事が出来ました。私共は、今年5月で2人の年齢を合わせると167歳となります。

私共が子どもの頃は、人生50年等と云われておりましたのに…。これは、衛生に関する技術の進歩と食料事情改善という事が、大きな名要因と感じております。大変有難い事と感謝もしております。

私共は、K市に在る山岳愛好会に入会させて頂いておりましたが、家内は加齢に伴う体力の衰えを自覚して、「山に登り、万一事故を起こし、会員の皆様方に迷惑を掛けたくない。」と云う事を理由に、2016年限りで退会をさせて頂きました。

私は、体力の衰えを自覚はしておりますが、日常のトレーニングを強化して、(毎日散歩を続ける事・週2回の野菜作りに精を出す事・春の山菜採りに連れて行って頂く事・秋のキノコ採りで汗を流す事)等を引き続き実践して衰えを抑え、来年も山の仲間迷惑を掛けずに登山を続けたいと考えております。

さて、2016年のヤマジマイ(最後の山行)は、甲子高原(阿武隈川源流を訪ねると云うもの)でした。12月初旬に行われました。この日は天候にも恵まれ、散り積もった落ち葉を踏みしめながら、阿武隈川の源流の清らかな流れを心行くまで堪能する事が出来ました。

散策を終えて、村の温泉旅館の温泉で汗と疲れを洗い流した後、総会が開かれ来年の山行計画等が全会一致で承認されました。総会の後、山海の珍味を肴にして懇親会と云う事になりました。冒頭に皆勤者(3月に茨城県焼森山、この山はミツマタの花が見事・4月に茨城県宝冢山、この山は新緑が見事・5月に福島県麓山、この山は故郷の山。足下の猪苗代湖と遠くに磐梯山の眺めが見事・6月に福島県七入り～御池旧道このコースのモウカケの滝の眺めが素晴らしい・7月会津駒ヶ岳、この山は日本百名山の一座、時間の関係で登頂せず下山、残念・8月に富山県立山三山、3003mの雄山等に登頂、帰路落差日本一(350m)の称名滝に大感激・9月に宮城県硯上山、ガスがかかり眺望ゼロ残念・10月に福島県鬼面山、風雨強く登頂を断念・11月に福島県日山、ガスがかかり眺望ゼロ)の月例山行総てに参加した会員に皆勤賞が贈られ、その中の1人に選ばれる事が出来ました。

誠に有難く幸せに感じました。これも偏に、丈夫な身体に育てて頂いた両親と、毎日の健康管理に心を砕いている妻の努力の賜物であると深謝している次第です。この感謝の心を忘れず、今年も頑張りたいと思っております。

昨年中は大変有難うございました。
お陰様で、充実した年でありました。その為か、短く感じる1年でした。
震災後、建築業界の環境が様変わりして、5年の歳月が過ぎました。
2011年の頃、建築業界から離れた職人達の数、会社の数は、減少の一途をたどっていました。需要が圧倒的に少なかったのです。
しかし、2011年3月11日を境にして、震災の緊急復興の為、建築関係の職人の数が不足する現象がおきました。
今になると、大分落ち着いてきた感があります。
それでも、まだまだやり切れていない部分がありそうです。
衣食住に関しては、願わくば安定した日々を、と思います。
震災時、様々な困難にあって、未だに脱していない人達がいることと思いますが、1日も早く安心した生活に戻れることを願い、一助となることは何かを考えてみたいと思います。
更にいい年でありますように。

幸田 一二

.....

明けましておめでとうございます。

昨年は、新築住宅やリフォームと工事をさせていただき、ありがとうございました。

復興住宅も、地元企業として工事に関わる事が出来まして、色々学ぶ事もあり、よい経験をさせていただきました。

今年は、現場を綺麗にする事に重点を置き、仕上がりにキズ・汚れが無いように工事管理をする事と、資格を取得するために勉強に力を入れたいと思います。

今年もよろしくお願いたします。

渡辺 正勝

昨年もお世話になりました。

年々1年があっという間に終わってしまうように感じます。
昨年も引き続き、除染作業をしていましたが、住宅の除染作業がようやく完了し、現在は生活圏域の森林除染の作業が始まりました。

住宅の除染と勝手が違い、作業の効率化や安全対策などの模索に奮闘しております。

特に昨年は、除染作業の方に労働基準局の巡回が入るなど、安全対策の大切さを思い知らされることが多々あり、また今後の森林除染は急勾配法面作業などの危険が潜む作業が多くなってくることが予想されるため、なお一層安全管理の勉強をしていきたいと思っております。

本年もよろしくお願ひいたします。

鈴木 信義



2017

自社に入社し、今年の4月で8年になります。
昨年は大変お世話になりました。ありがとうございました。

昨年中の新築工事では、大工としてとても勉強になる仕事をさせていただきました。

今年の目標は「スキルアップ」です。

年々、建物の性能や、使う道具の利便性などが上がっています。

「道具を制する者は、試合を制す」という言葉もありますので、勉強に仕事に家庭に充実できるよう、今年も笑顔いっぱい頑張ります。

本年、もよろしくお願ひいたします。

渡辺 正吾

明けましておめでとうございます。

昨年も周りの方々からご指導をいただき、大変勉強になりました。
ありがとうございました。

木造から鉄骨造と、幅広く仕事をさせていただきました。
工事を進めるにあたって、お客様と打合せをさせていただきますが、
最近は設計の打合せも社長と同席するようになりました。
打合せの内容が形になっていくと思うと緊張したり、難しい所もありますが、
反面楽しく感じる場所もあり、奥深いなと思う1年でした。

この文章を書いている今日は、冬だということにとっても暖かいです。
こんな毎日だといいのになと思うのですが、そうもいかないのが冬です
ね。これからまた、だんだんと寒くなって行きますので、体調を崩さない
よう、暖かくしてお過ごし下さい。

佐藤 美穂

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

明けましておめでとうございます。

昨年は、復興公営住宅という公共工事に携わることができ、
いい経験ができたと思います。
また、新築工事や増築工事では、何かとお世話になりありがとうございました。

本年も頑張りますので、よろしくお願いいたします。

國分 務

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年8月に入社し、まだ4ヶ月しか経っておりません。私は、一度に色々と覚えるのが苦手で、皆様方にはご迷惑をかけてしまうかも知れません。

先輩方に教わりながら勉強中ですが、一生懸命頑張りますので、沢山のご指導を下さいますよう、宜しくお願い致します。

吉田 芳一

※ ※ ※ ※ ※ ※

明けましておめでとうございます。

昨年はたくさんの方々にお世話になりまして、1年を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

毎年思う事は、やはり確認作業を徹底するという事です。その時は絶対これで大丈夫と思っても、次の日再確認をすると抜けている点があったりするので、気を付けて行きたいと思います。

今年も、若い社員のエネルギーを吸い込みながら、頑張ってまいります。

幸田 久美

.....
平成29年 1月5日発行
有限会社 幸田建設
〈発行責任者〉幸田久美
〒969-1204
本宮市糠沢字八幡1-1
☎0243-44-3816

(後記)
平成29年の新しい年を迎えました。新しい年はやはり気持ちがいいものです。わくわくしてきますね。皆様方にとって素晴らしい1年となりますようお祈り申し上げます。(事務員K)